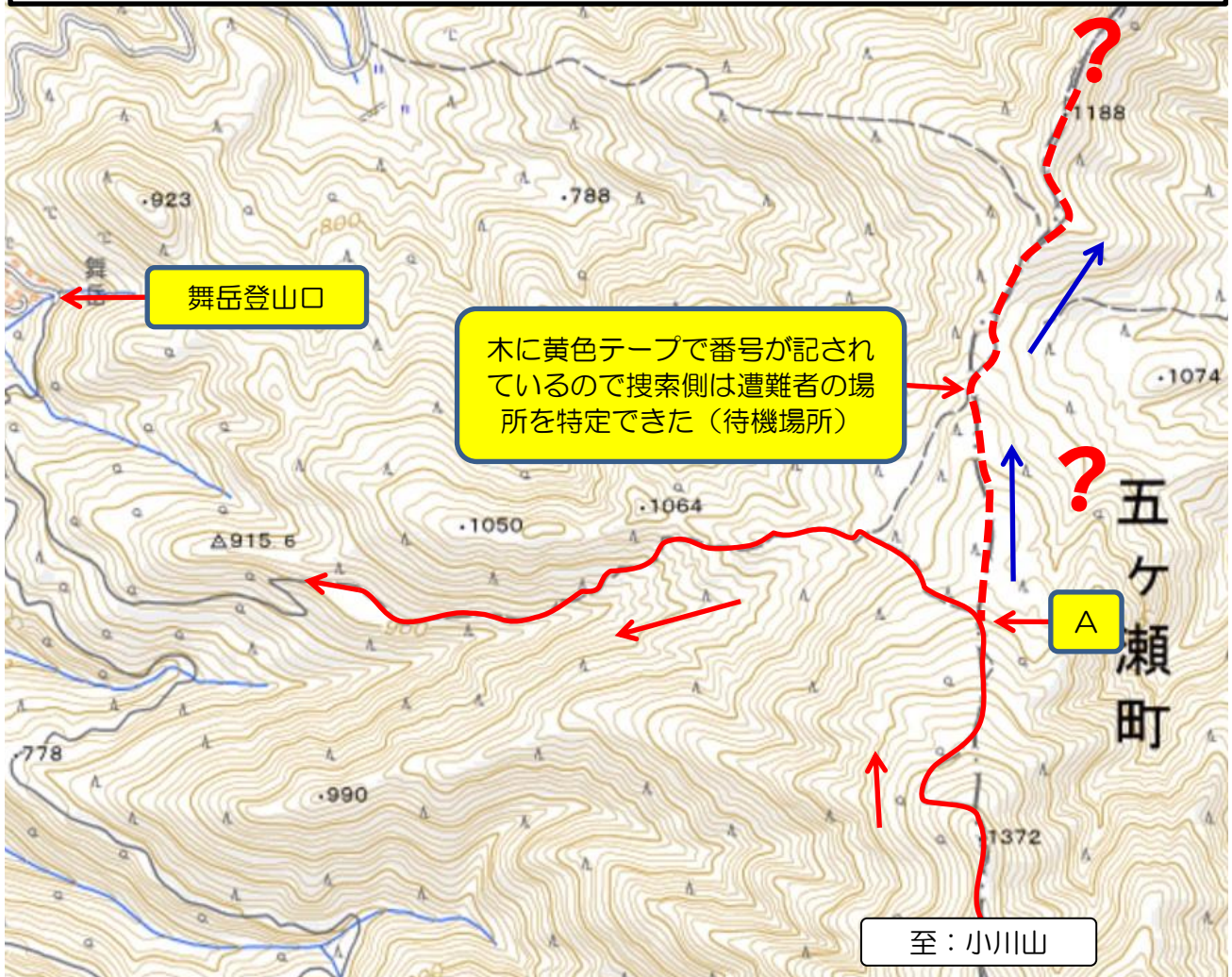


小川岳遭難(2021年11月)

登山道の木に番号が記されていたため遭難者は番号を連絡し救助要請。夕暮れを過ぎていたが救助され事なきを得た。



解説

今回の道迷いは小川岳からの下山途中に起きました。赤矢印の方向、舞岳登山口に下りるつもりが、A地点で間違っって登山道ではない尾根に入り、青矢印の方向に進んでしまいました。連絡を受け私が舞岳登山口に着いたのが17:30、暗くなったため登山道テープのあるところで動かないよう指示して18:00にB地点で合流、誘導しながら19:00に無事下山することができました。

この登山道テープは6~7年前に設置されたものです。この番号で警察、消防、役場と位置情報の共有がなされています。(これは山都町が設置しているものですが、五家荘エリアでも五家荘登山道整備プロジェクトによりレスキューポイントが設置されています。)(HP参照)

登山道テープの設置は登山者にとって心強い。また、テープ設置や台風後の荒れた登山道整備に携わっている地元の方には頭が下がる。道迷い遭難は、登山道から外れた場合だけではなく、登山道にいるものの目的地に行くことができないすべてだと思う。

登山は自分の足で歩き、自分で下山する行動なので、体力・知識が必要となる。向上心と学ぶ姿勢があれば、より安全な登山をすることができるし、なにより、楽しい登山をすることができる。これからも豊川山岳会Hpの「初心者からの読図」コーナーでは、地図にかかわる知識を掲載し続けていきたい。